

9.19革命軍、日帝政治中枢に大火炎攻撃!

自民党本部炎上・陥落!

昨日
中曽根二期決行と発言許すなど、破防法爆砕!

9月19日午後7時半、わか革命軍は、全日本・全アジア人民の怒りの標的、東京都千代田区永田町自民党本部ビルに火炎放射攻撃を敢行し、怒りの炎は9階建てビルを三時間にわたって焼き尽し、日帝・政治中枢は陥落した!

すべての学友諸君! 決定的な勝利だ!
わか革命軍は、全人民の怒りの的=自民党総本部に超絶級の火炎攻撃を敢行した。敵権力中枢は丸焼け、敵は二期決戦をまえに、その本拠を陥落させたのだ。

全国一全人民は歓呼の声をもってこれを迎えている。当然ではないか。成田二期着工=農民なぶり殺しをこの連休明けにも開始するとぶちあげている日帝政治委員会を、手もこまねいて見ているというのか! 日帝百年の歴史は朝鮮アジア人民殺りくの歴史だったのではないか! その総本部が燃え上るほどすばらしいことはない。日帝ヌルジョアジーはなすすべをしらず、ぼう然と立ちつくして、党本部が焼えおちるにまかせていたのだ。

しかし、三里塚二期決戦勝利=革命的武装斗争は、10月蜂起戦は、やっと緒についたばかりだ。さらなる猛攻、文字通りの驚天動地のげり、う戦を間髪いれず叩きつけよ!

「なぜだ?」よく言った!

すべての諸君! 日帝ヌルジョアジーは新聞紙上でこういつている。「なぜだ? まったく不可解な事件」と。

「なぜだ?」だど! 8・28をもって成田空港二期着工を決断し、キャンペーンし、農民をなぶり殺しにすると宣言しておきながら、この連休明けにも甲水着工から一兵に、二期工事を

強行するといっておきながら、「なぜだ」とよく言った。己れの不正義を徹底的におしかり、居直る日帝奴才者のこの卑劣さ!

中曽根よ、田中よ、お前達のしてきたことはこれくらいで許されるものなのか!

『機動隊が人を叩いて傷つけて、東山薫君みたいに殺してもよ。法律に向われぬんだよ。人の命は地球よりも重い』と口をきいては、いまの司法=政府は平気でこんなことをやるんだよ。こんな残酷は社会はないよ。これが人間の社会だとするならば、犬畜生にも劣るよ。法を犯していい者と、法を守らなければならぬ者があるんだ。これが今の社会の実態じゃないか』(反対同盟数地内・島村良助氏)

「なぜだ!」と言いたいのはこっちの方だ! 労働者人民を搾取しつつ、「人間は経済的動物だから、働けなくなったら火葬場送りにはすればよい」(83.11 渡部厚生大臣=当時)と虫けら以下の消耗品として扱い、藤尾政調会長は「教育勅語の復活を」と叩きつけて、今や、「お国のために」命をさしだせとわめいている日帝を、どうしてこのまま放置できるだろうか!

五億円の金を盗みとりながら政界に君臨する田中や、浜田幸一が許せるだろうか!

ささじ9、19戦は、労働者人民の当然の反撃であ(→4p.ジへ続く)

三里塚闘争委員会(この正日前)

中核派

り、労働者人民の日帝への怒りの激しさ、戦争への危機感の深さを体現し、労働者人民の今の現実の利益、明日の現実の利益のために必要不可欠なたたかいだった。

しかしまだ足りない。もっと多くの炎が血が、権力に強制されなくてはならない。三里塚十九年の怒りは、日帝百年の悪虐非道への怒りは、これっぽっちで日帝を赦免するものでは断じてない。

われわれは権力自らに、中曽根に、田中へ、自らの身をもって人民の苦しみに匹敵するだけの苦しみを味わせてやる。思い知らせてやるのだ。更なる極限的ゲリラを間隙しれずに叩きつけ、10月蜂起戦を血と炎で真っ赤に染めあげる。

覚悟しろ！中曽根よ！田中よ！全マルジョアジーよ！これの本丸も守れなくして、どうして今秋階級決戦をたもたうつもりだ。次なる攻撃を以て待て！

日帝、ついに破防法適用を検討

学友諸君！この超絶級のゲリラ戦に度肝をぬかれた日帝は、ついにわが革共同の破壊活動防止法適用の検討と、新たな弾圧法制定策動を開始した。ここに完全に七〇年斗争をものりこえた壮大な階級決戦が切り拓かれた。

かつての破防法攻撃と反革命力7マルの反革命戦争放火以来、十余有年、二重村崎・村カ7マル単に勝利的にたたかいぬいたわれわれは、9.19をもって全人民を領導し、日帝を打倒しぬく真の、唯一の革命党として、本格的な権力との相互せん滅戦に突入したのだ。

十四年前にわれわれにかけられた破防法攻撃は、三里塚二期決戦勝利・革命的武装斗争路線の強力な物質化によって粉々にぶち破られている。9.19自身がそれを最も雄弁に証明している。

地下党—地下軍の建設—非合法・非公然の建党建軍を勝利的に貫徹したわれわれにとって、破防法はしよせん無力なものでしかない。

日帝よ！破防法を適用できるものならしてみろやよい！その瞬間、全国いたるところで、9.19を数倍するゲリラが火を噴くのを忘れるな。中曽根には、けっして見えない部隊が、中曽根の目の玉をひんむくようなたたかいを白熱的・蜂起的にうちぬき、人民を非公然のうちに組織して、日帝打倒を実現する革命党として一層の飛躍をなしとげるであろう。蜂起を開始した党にとって、弾圧は火の玉に油をそそぐだけなのだ。

「成田二期決行」を叫ぶ中曽根を空港もろとも爆砕せよ！

中曽根は、9.19戦いに大打撃をうけながら、昨日9.19のまき返しをもかけて「成田二期工事はどんな被害があっても絶対にやる」と自ら絶叫した。

よく言っても中曽根よ！我々の戦場に自らおどりに出てきれば、起る一切の責任をとってもらう。

三里塚こそは我々を育くんだ地であり、我々のホームグラウンドだ。中曽根がここぞどんな暴期をとげるか、決定権は我々にある。何の成算のないまま着工して、何千人の機動隊、工学会社員の命をほうりだすのか？！全国に根拠にあるお前らの戦略拠点を守れるのか、本丸でさえこのガードでどうするつもりだ。我々は着工の日を待ってはいない。お前の昨日の発言で十分だ。一切の制約をとり払ったのはお前だ。その言葉にふさわしい死に方をしてもらおう。

本日の集会在今秋蜂起を決する！

すべての学友諸君！

蜂起は始まった。今秋蜂起の大きさとその勝利を決するものこそ本日の集会だ。

日本人民が、武装斗争で日帝を打倒するという歴史的選択を決断する集会だ。人民の正規軍の戦果をがっちりうけとめ、各人が蜂起の配置につくりあげた大会としてかちとられようとしているのだ。

学友諸君！

一日が何年分にもおたるこの激動的な一瞬、一瞬に、君は何をしているのだ！

すでに9.19戦い—革命軍起りの報をきいて、かつてない偉大な人民が、本日の決起を開始している。君だけが冷いまさまでいいはずはない！ともに起ちて、3時半、教養正門前へ集合せよ！